



## 2021年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年10月12日

上場会社名 株式会社ラクト・ジャパン 上場取引所 東  
 コード番号 3139 URL https://www.lacto-japan.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三浦 元久  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門担当 (氏名) 前川 昌之 (TEL) 03 (6281) 9752  
 四半期報告書提出予定日 2021年10月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年11月期第3四半期の連結業績(2020年12月1日～2021年8月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年11月期第3四半期	79,630	△6.4	2,245	△5.5	2,213	0.2	1,600	△0.4
2020年11月期第3四半期	85,064	△2.8	2,374	△4.6	2,208	5.8	1,607	7.9

(注) 包括利益 2021年11月期第3四半期 1,857百万円(26.9%) 2020年11月期第3四半期 1,463百万円(75.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年11月期第3四半期	162.41	160.05
2020年11月期第3四半期	163.39	160.42

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年11月期第3四半期	50,068	19,060	37.9	1,927.84
2020年11月期	43,369	17,592	40.4	1,774.58

(参考) 自己資本 2021年11月期第3四半期 18,991百万円 2020年11月期 17,523百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年11月期	—	—	—	30.00	30.00
2021年11月期	—	—	—	—	—
2021年11月期(予想)	—	—	—	32.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2021年11月期の連結業績予想(2020年12月1日～2021年11月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	115,000	3.8	2,810	1.1	2,010	△2.5	203.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年11月期3Q	9,889,200株	2020年11月期	9,877,200株
② 期末自己株式数	2021年11月期3Q	37,821株	2020年11月期	2,600株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年11月期3Q	9,857,409株	2020年11月期3Q	9,838,831株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の連結業績予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれております。当該予想と実際の業績の間には、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は当社ウェブサイトに掲載いたします。(https://www.lactojapan.com/ir/)

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（以下、「当第3四半期」）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」）が変異株により再拡大したことから、多くの地域で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰り返し発出され、経済活動は深刻な影響を受けました。ワクチン接種は進んでいるものの、感染症はいまだ収まらず、先行き不透明な状況が続いております。

日本の食品業界の状況は、安定した内食需要がある一方で、感染拡大防止のための外出自粛や外食、レジャー業界等の営業活動制限により、業務用食品需要の低迷が継続しました。

当社グループの主要事業である乳製品市場においては、底堅い内食需要があったものの7月後半からの感染症急拡大による人流の減少や、8月下旬の天候不順の影響により、最終商品の需要は伸び悩みました。また需要が低迷する一方で、国内の生乳生産は順調に推移し、国産脱脂粉乳及びバターの在庫削減は期待したほどは進まず、依然高止まりの状況が続いております。

このような市場環境のもと、当社グループでは、乳製品原料・食肉ともに内食需要に対応する原料や新規商品の販売に注力するほか、乳製品原料に関しては、国産品の販売にも積極的に取り組み、販売数量の確保に努めました。

アジア事業においては、感染症の急拡大を受け、一部の国で実施された厳格なロックダウン措置や、日本向けの乳調製品原料の需要減などの逆風もありましたが、東南アジア主要地域で堅調に推移した内食需要や中国向け製品需要を取り込むことに注力いたしました。

以上の結果、当第3四半期の業績は、売上高は796億30百万円（前年同四半期連結累計期間（以下、「前年同四半期」）比6.4%減）となりました。営業利益は22億45百万円（前年同四半期比5.5%減）、経常利益は22億13百万円（前年同四半期比0.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億円（前年同四半期比0.4%減）となりました。

部門別状況につきましては、以下のとおりです。

#### (乳原料・チーズ部門)

国産乳原料在庫の高止まりにより、独立行政法人農畜産業振興機構（以下「ALIC」）による入札は引き続き低水準に留まり、当社の輸入脱脂粉乳・バターの販売も低調に推移しました。例年夏場に需要が高まる乳製品は、感染症の急拡大による業務用需要の回復の遅れや、8月下旬の天候不順により需要が伸びず、厳しい事業環境となりました。このような中、当社グループは、政府及び乳業団体による在庫削減対策事業への対応で国産品の販売を伸ばしたほか、TPP、日欧EPAなどの低率関税枠の活用により競争力のある商品を仕入れ、輸入乳原料・チーズの販売数量確保に努めました。

現在も需給バランスの崩れによる国産乳原料の在庫過多の状況は続いており、長期化への懸念もあります。しかしながら、当社はこうした業界全体の課題解決に取り組むことは、事業環境の改善に寄与すると同時に、新たな事業展開の機会として捉えており、国産脱脂粉乳の海外への輸出や、販売対象商品の拡大などを進めております。実績は徐々に積み上がっており、感染症収束後の事業拡大を視野に入れ、今後も積極的に取り組む所存です。

チーズ事業においては、業務用原料販売の低迷が続く一方で、内食需要は底堅く、小売用プロセスチーズやシュレッドチーズの原料、デリバリー食品の原料などの販売に注力しています。

以上の結果、当第3四半期の乳原料・チーズ部門の販売数量は135,033トン（前年同四半期比7.2%減）、売上高は549億96百万円（前年同四半期比8.2%減）となりました。

#### (食肉加工品部門)

食肉加工品部門の販売は好調に推移しました。生ハム・サラミなどの食肉加工品については、引き続き外食・レジャー産業の回復遅れの影響が続いているものの、堅調な内食需要を背景に、主要取扱商品であるチルドポークや、ハム・ソーセージなどの加工食品原料であるフローズンポーク、さらには豚肉調製品の販売は金額・数量ともに前年同四半期を上回りました。

豚肉の調達においては、主要産地である米国の生産工場における労働者不足や、コンテナ及び港湾労働者不足などに起因する米国物流の混乱が続いておりますが、長年の取引により信頼関係を築いたサプライヤーとの緊密な連携により、顧客ニーズに対応した安定的な供給を継続することができました。

また、新規商品として拡販に注力している牛肉は、販売先の開拓が進み販売を伸ばすことができました。

以上の結果、当第3四半期の食肉加工品部門の販売数量は19,013トン(前年同四半期比17.8%増)、売上高は103億81百万円(前年同四半期比18.2%増)となりました。

#### (アジア事業・その他)

アジア事業の乳原料販売部門(商社)においては、日本における国産乳原料在庫の高止まりを背景とした、日本向け乳調製品原料販売の低迷が続いております。また、現地向け販売もフィリピンやインドネシアなど、販売数量の多い地域において感染症拡大が深刻化したことなどから販売は伸び悩みました。そのような中、中国や台湾向けなど感染症の影響が少ない地域での販売強化や、商品構成の改善により、売上の確保に努めました。

以上の結果、同部門の販売数量は34,547トン(前年同四半期比28.4%減)、売上高は111億12百万円(前年同四半期比19.2%減)となりました。

アジア事業のチーズ製造販売部門(メーカー)においては、7月以降、感染症の急拡大に伴い一部の国で実施された厳格なロックダウンにより外食向け販売が伸び悩んだことに加え、販売先の現地食品メーカーの生産縮小の影響を受けました。特にタイやマレーシアでは、工場の稼働縮小・停止を余儀なくされた取引先もあり、当社グループの原料販売も一時、伸び悩む局面もありました。

しかしながら、シンガポールとタイで展開している当社のプロセスチーズ工場は生産縮小などの制約を受けることなく、内食向け食品やアジアから輸出される冷凍食品向けの底堅い需要に対応できたことから、当部門の販売は順調に推移しました。

以上の結果、販売数量は3,355トン(前年同四半期比13.8%増)、売上高は24億28百万円(前年同四半期比19.2%増)となりました。

その他の事業として営業活動が本格化している機能性食品原料販売においては、スポーツニュートリション分野への乳プロテイン原料の販売が好調に推移したほか、ナッツ類など新規商品の販売も立ち上がっております。引き続き「健康」をキーワードに機能性の高い食品原料の拡販に努め、事業拡大を目指します。

以上により、当第3四半期のアジア事業・その他の合計売上高は142億52百万円(前年同四半期比12.9%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ66億98百万円増加し、500億68百万円となりました。

#### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末と比べ65億85百万円増加し、472億8百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が15億79百万円増加したこと、商品及び製品が45億21百万円増加したことによるものです。

#### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末と比べ1億13百万円増加し、28億59百万円となりました。主な要因は、有形固定資産が61百万円増加したこと、投資その他の資産が38百万円増加したことによるものです。

#### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末と比べ47億36百万円増加し、246億75百万円となりました。主な要因は、買掛金が21億89百万円増加したこと、運転資本の増加に伴い短期借入金が増加した33百万円増加したことによるものです。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末と比べ4億93百万円増加し、63億32百万円となりました。主な要因は、長期借入金が5億5百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べ14億68百万円増加し、190億60百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が13億4百万円増加したこと、為替換算調整勘定が1億91百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年11月期の連結業績予想は、2021年7月13日に公表しました内容から変更しておりません。

当社の輸入取引における仕入契約は原則として外国通貨となっており、為替変動リスクを回避するため、仕入契約締結の際に金融機関と為替予約を締結しております。

また、当社は会計規則に基づき、仕入計上時期を船積日とし、仕入計上に使用する為替レートは船積日の実勢レートとしております。(予約レートではない。)

一方で当社の標準的な営業循環では仕入契約から商品が船積されるまでに平均2～3か月の期間があり、その1か月後に仕入代金の決済が行われ、さらにその2か月後に売上が計上されます。

従いまして仕入契約時に行う為替リスクをヘッジした場合でも、仕入契約から仕入計上までの期間に行う為替変動があった場合には、損益計算書の各利益段階において為替変動による影響を受けることがあります。

なお、仕入計上されているものの、売上計上時期が翌四半期に行われた場合には、営業外収益に為替差損益のみが先行して計上され経常利益に反映されることがあります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,004,506	5,422,115
受取手形及び売掛金	13,849,488	15,429,151
商品及び製品	21,008,277	25,529,424
原材料及び貯蔵品	374,916	538,726
その他	389,165	292,127
貸倒引当金	△2,922	△2,854
流動資産合計	40,623,432	47,208,690
固定資産		
有形固定資産	690,774	752,029
無形固定資産	20,357	33,623
投資その他の資産		
その他	2,052,507	2,091,010
貸倒引当金	△17,301	△16,999
投資その他の資産合計	2,035,205	2,074,010
固定資産合計	2,746,337	2,859,664
資産合計	43,369,769	50,068,354

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	9,739,548	11,929,496
短期借入金	5,500,000	8,233,406
コマーシャル・ペーパー	—	1,000,000
1年内償還予定の社債	270,000	60,000
1年内返済予定の長期借入金	3,220,000	2,695,000
未払法人税等	490,902	251,252
その他	718,632	506,040
流動負債合計	19,939,083	24,675,195
固定負債		
長期借入金	5,060,000	5,565,000
退職給付に係る負債	350,141	358,784
資産除去債務	37,585	50,515
その他	390,916	358,210
固定負債合計	5,838,643	6,332,510
負債合計	25,777,726	31,007,706
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,142,565	1,147,695
資本剰余金	1,178,509	1,181,533
利益剰余金	15,017,796	16,322,454
自己株式	△10,643	△111,793
株主資本合計	17,328,227	18,539,890
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	257,397	276,978
繰延ヘッジ損益	△59,307	△13,838
為替換算調整勘定	△3,076	188,815
その他の包括利益累計額合計	195,013	451,956
新株予約権	68,801	68,801
純資産合計	17,592,042	19,060,648
負債純資産合計	43,369,769	50,068,354

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)
売上高	85,064,646	79,630,214
売上原価	79,980,967	74,598,619
売上総利益	5,083,679	5,031,595
販売費及び一般管理費	2,708,921	2,786,281
営業利益	2,374,757	2,245,314
営業外収益		
受取利息	4,100	2,659
受取配当金	9,926	9,522
為替差益	—	123,499
助成金収入	15,140	12,891
保険返戻金	18,494	27,681
雑収入	32,872	28,259
営業外収益合計	80,534	204,513
営業外費用		
支払利息	138,065	107,617
支払手数料	67,731	110,527
為替差損	20,799	—
雑損失	20,131	18,609
営業外費用合計	246,727	236,754
経常利益	2,208,564	2,213,073
税金等調整前四半期純利益	2,208,564	2,213,073
法人税等	601,000	612,177
四半期純利益	1,607,563	1,600,895
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,607,563	1,600,895

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)
四半期純利益	1,607,563	1,600,895
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27,089	19,581
繰延ヘッジ損益	△31,978	45,469
為替換算調整勘定	△131,192	187,493
持分法適用会社に対する持分相当額	△7,751	4,399
その他の包括利益合計	△143,833	256,943
四半期包括利益	1,463,730	1,857,839
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,463,730	1,857,839
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。